

2. 火山の概況

(平成 15 年 12 月 11 日 ~ 平成 15 年 12 月 17 日)

期間中、5 火山の火山活動度レベルに変化はなかった。浅間山では地震がやや多い状態が続いた。阿蘇山では中岳第一火口の浅部の熱的な活動が依然として活発であった。

霧島山では御鉢の火山活動が活発になった。微動が発生し、新しい噴気孔ができてやや活発な噴気活動が継続した。

その他の火山については、三宅島では噴煙活動が継続し、多量の火山ガスの放出が続いた。諏訪之瀬島では噴火があった。

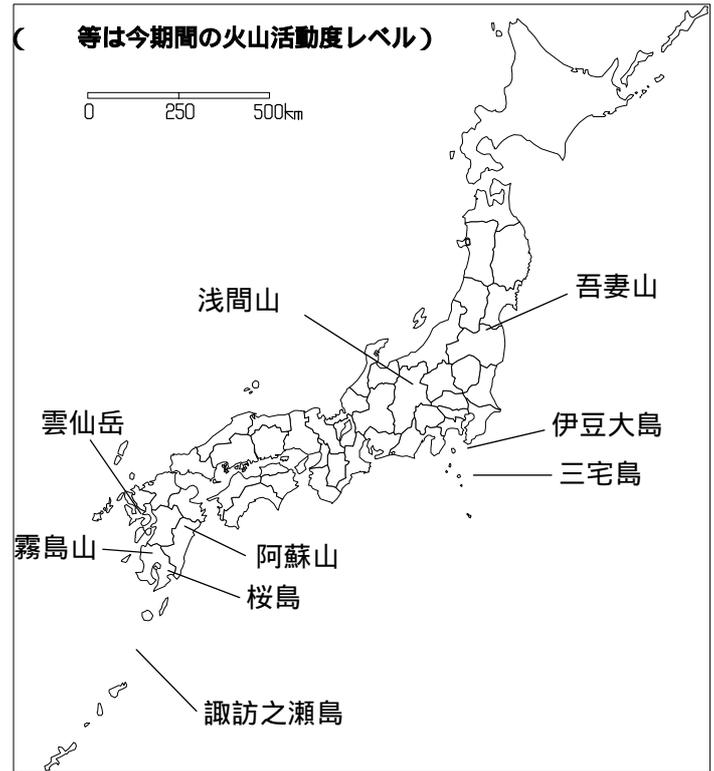


図1 記事を掲載した火山

表1 最近1か月に記事を記載した火山

| 号 | 対象期間 | 浅間山 | | 伊豆大島 | | 阿蘇山 | | 雲仙岳 | | 桜島 | | 樽前山 | 吾妻山 | 富士山 | 三宅島 | 福徳岡ノ場 | 霧島山 | 薩摩硫黄島 | 諏訪之瀬島 | |
|----|-------------|-----|----|------|----|-----|----|-----|----|-----|----|-----|-----|-----|-----|-------|-----|-------|-------|--|
| | | レベル | 記号 | レベル | 記号 | レベル | 記号 | レベル | 記号 | レベル | 記号 | | | | | | | | | |
| 51 | 12/11-12/17 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 50 | 12/ 4-12/10 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 49 | 11/27-12/ 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 48 | 11/20-11/26 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 47 | 11/13-11/19 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

注1 記号の意味

- : 噴火した火山
- : 観測データ等に変化があった火山
- : 前期間まで や で掲載した火山の、その後の状況等
- : その他記事を掲載した火山
- 等の丸付き数字: 火山活動度レベル

注2 本文の火山名の後ろの[噴煙・噴気・地震・微動・空振・地殻変動・熱・火山ガス等]は、変化があった観測データ項目を示す。

吾妻山

前期間の10日前後に、一切経山(大穴火口付近)を震源とする体に感じない微小な地震が一時的に増加したが、その後は少ない状態で経過した。

浅間山 [地震・微動・熱] 火山活動度レベル: 2 (やや活発な火山活動)

6月末頃からやや多く観測されるようになった振幅の小さい地震は、徐々に回数が減ってきているものの今期間も1日あたり25~67回とやや多く観測された。また、振幅の小さい微動は15日に2回観測された(前期間は6回)。

群馬県林務部が火口縁に設置している赤外カメラでは、火口底で引き続き高温部が観測された。

伊豆大島 火山活動度レベル: 1 (静穏な火山活動)

17日に一時的に噴気が確認されたが、これは噴気が上がりやすい気象条件の下で、三原新山に以前からある弱い噴気が監視カメラでも見えたものである。地震活動は静穏で、地殻変動等のその他の観測データにも異常な変化はなかった。

三宅島 [火山ガス・噴煙・地震]

16日に気象庁が行った火山ガス観測¹⁾では、二酸化硫黄の放出量は日量3,700~7,400トンと、長期的には低下傾向がみられるものの依然多い状態であった(図2)。また、同時に気象庁が大学合同観測班と共に行った上空からの観測¹⁾では、火山ガスを含む青白い噴煙が東山麓へ流下していた。火口内の詳細な状況は、噴煙のため確認できなかった。

監視カメラによる噴煙の観測では、白色の噴煙が連続的に噴出しており、噴煙高度の最高は火口縁上500mであった。

振幅の小さいやや低周波の地震の回数は、1日あたり25~69回とやや多い状態で推移した。但し、これらの地震活動に伴ってその他の観測データに特に変化はみられなかった。

GPSによる地殻変動観測では、今年6月頃から再び島の収縮傾向を示している。

1) 警視庁の協力による

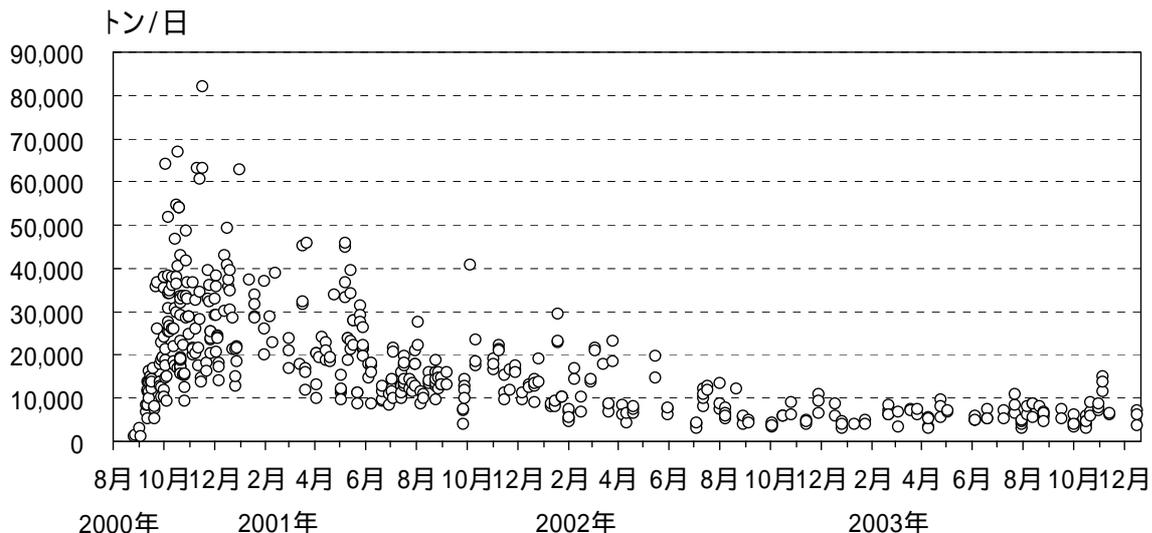


図2 三宅島 二酸化硫黄放出量の推移(2000年8月26日~2003年12月16日)

阿蘇山 [地震・微動] 火山活動度レベル: 2 (やや活発な火山活動)

中岳第一火口の浅部の熱的な活動が活発で、B型地震、孤立型微動が多い状態で推移した。

噴煙の状況は、少量の白色噴煙が連続的に噴出しており、噴煙高度の最高は火口縁上400mであった。

地震及び微動の発生状況は、B型地震が89回(前期間86回)とやや多い状態で、また孤立型微動は1,337回と前期間782回に比べて増加し、今年の9月以降の多い状態であった。A型地震は20回(前期間16回)と特に変化はなかった。

GPS等による地殻変動の観測データには特に異常な変化はなかった。

雲仙岳 火山活動度レベル: 1 (静穏な火山活動)

地震活動、噴煙活動とも静穏であった。その他の観測データにも異常な変化はなかった。

霧島山 [微動・噴気・地震]

御鉢の火山活動が活発であった。微動が発生し、新しい噴気孔ができてやや活発な噴気活動がみられ、微小な地震が多い状態で推移した。

12日11時14分から御鉢付近が震源とみられる継続時間40分の微動が発生した。この微動は、昨年6月以降に微動がしばしば発生するようになってからでは、継続時間が最も長く、振幅は中程度であった。この他、12日13時15分、15日11時20分にも継続時間の短い微動が発生した(以上図3)。

13日からは御鉢の噴気活動がやや活発になり、13日17時頃には監視カメラにより、少量で白色の噴気が火口縁上200mまで上がるのを観測した。翌14日に行った調査観測では、御鉢火口内の南壁中腹に新たな噴気孔が2か所に生成し、そこから勢いよく噴気が出ているのを確認した。また、噴気孔

の周囲には、約 10m にわたり泥や 2 ~ 3 cm の小石を飛ばした形跡が見られた。これ以降、15 日に鹿児島県の協力により行った上空からの観測、16 日に再度行った調査観測、それに監視カメラによる観測のいずれもで、噴気が火口縁上 100 ~ 200m 程度まで上がっているのが確認されており、やや活発な噴気活動が継続している。

また、12 日の継続時間が長い微動の発生後から、御鉢付近を震源とする体を感じない微小な地震が多くなり、期間中の回数は 69 回となった。

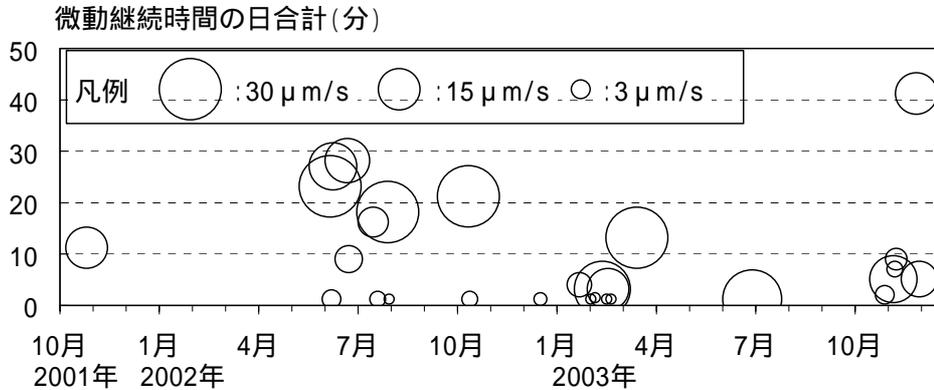


図3 霧島山 御鉢付近が震源とみられる微動 継続時間(日合計)と最大振幅 (2001年10月~2003年12月) 東京大学地震研究所高千穂西観測点による。

桜島 火山活動度レベル：2 (比較的静穏な噴火活動)

期間中、噴火はなかった(前期間は噴火1回、爆発はなし)。今期間の噴煙活動は、乳白色の噴煙が最高で火口縁上 300m まで上がるのが観測された。鹿児島地方气象台(南岳の西南西約 11km)では降灰はなかった(前期間もなし)。

諏訪之瀬島 [爆発・微動]

期間中、爆発が1回発生した(前期間はなし)。また、連続微動がしばしば発生した。

なお、十島村役場諏訪之瀬島出張所によると、島内の集落(御岳の南南西約 4 km 付近)では降灰はなかった。

表2 火山情報発表状況

| 火山名 | 情報の種類及び号数 | 発表日時 | 概要 |
|-----|---------------|------------|--|
| 三宅島 | 火山観測情報第 687 号 | 11 日 09:30 | 活動経過ほか(噴煙・地震・微動・空振・火山ガス・地殻変動の状況、上空からの観測結果、及び上空の風・火山ガスの移動予想)。 |
| | 火山観測情報第 700 号 | 17 日 16:30 | |
| 阿蘇山 | 火山観測情報第 31 号 | 12 日 14:40 | 火山活動がやや活発(孤立型微動が引き続き多い、中岳第一火口の熱的な状態が高い)。火山活動度レベルは 2。 |
| 霧島山 | 火山観測情報第 2 号 | 12 日 15:00 | 御鉢で継続時間の長い微動が発生 |
| | 火山観測情報第 3 号 | 14 日 10:30 | 御鉢で噴気活動やや活発 |
| | 火山観測情報第 4 号 | 14 日 13:00 | 御鉢に新しい噴気孔、噴気活動やや活発 |
| | 臨時火山情報第 1 号 | 15 日 16:00 | 御鉢の火山活動活発(微動発生、噴気活動やや活発) |
| | 火山観測情報第 5 号 | 16 日 15:20 | 御鉢の火山活動活発(地震がやや多い、噴気活動やや活発) |
| | 火山観測情報第 6 号 | 17 日 15:10 | 御鉢の火山活動活発(地震が増加傾向) |